

# 平成22年度 鶴岡学園事業報告

## I 法人の概要

### (A)建学の精神・学校法人の沿革

学校法人鶴岡学園は、昭和 17 年に故鶴岡新太郎初代理事長(昭和 38 年逝去)、故鶴岡トシ北海道女子栄養学校初代校長(昭和 53 年逝去)夫妻が、第二次大戦中の食糧難時代に食生活改善及び栄養指導を行う技能者の養成という目的から、札幌市に北海道女子栄養学校を開設した。当時栄養学校は東京、大阪に存在するだけで、全国で 6 番目に許可された学校であった。

以来、60 有余年の学園発展過程の中で、昭和 38 年に北海道栄養短期大学食物栄養学科を開設し、さらに地域社会の要請に応じ昭和 41 年に家政学科(昭和 63 年生活文化学科に名称変更・平成13年廃止)を、昭和 43 年に幼児教育学科をそれぞれ増設した。昭和 63 年には、恵庭市からの強い要請を受けて食物栄養学科を札幌市から恵庭市に移転した。

平成 6 年には、短期大学、従来の家政系重点の枠組みを越え、21 世紀に向けて社会の要請に適応できる高等教育機関を構築しようという意図で、短期大学名を北海道栄養短期大学から北海道文教短期大学に変更した。

さらに、平成 11 年に大学教育を志向する学生が増大する反面、短期大学の需要が低下するとされている中で、次の世代を担う創造性豊かな人材を育成するために短期大学の一部を改組転換して、北海道文教大学外国語学部を設置した。平成 15 年に人間科学部健康栄養学科を増設し、更に大学院グローバル研究科を増設した。また、平成 18 年に人間科学部理学療法学科、平成 19 年に作業療法学科、平成20年に看護学科を設置し、さらに平成22年度にこども発達学科を設置し、同時に外国語学部の3学科を国際言語学科1学科に改組した。

現在、本学園は大学、短期大学部とともに北海道文教大学明清高等学校と北海道文教大学短期大学部附属幼稚園を含む総合学園へと発展し、本学園創立者である故鶴岡トシが教えた『清く正しく 雄々しく進め』の学訓のもとに各分野において活躍しうる人間性豊かな人材の育成を実践している。

1942 年(昭和 17 年)	北海道女子栄養学校設立
1947 年(昭和 22 年)	北海道栄養学校へ校名変更
1959 年(昭和 34 年)	学校法人「鶴岡学園」設立 藤の沢女子高等学校(普通科)開校
1963 年(昭和 38 年)	北海道栄養短期大学(食物栄養学科)開学
1965 年(昭和 40 年)	短大／別科(調理専修)を設置
1966 年(昭和 41 年)	短大／家政学科設置 高校／北海道栄養短期大学附属高等学校へ校名変更及び食物科設置
1968 年(昭和 43 年)	短大／幼児教育学科を設置
1970 年(昭和 45 年)	北海道栄養短期大学附属幼稚園開園
1981 年(昭和 56 年)	短大／専攻科(食物専攻)を設置
1988 年(昭和 63 年)	短大／食物栄養学科・専攻科・別科を恵庭キャンパスに移転 短大／家政学科を生活文化学科へ名称変更 高校／札幌明清高等学校へ校名変更、男女共学へ
1994 年(平成 6 年)	短大／北海道文教短期大学へ校名変更

1999年(平成11年)	北海道文教大学開学
2001年(平成13年)	高校／北海道文教大学明清高等学校へ校名変更
2002年(平成14年)	短大／北海道文教大学短期大学部へ校名変更 幼稚園／北海道文教大学短期大学部附属幼稚園へ園名変更
2003年(平成15年)	大学／人間科学部健康栄養学科開設(食物栄養学科改組) 大学／大学院グローバルコミュニケーション研究科修士課程 中国語コミュニケーション専攻開設
2004年(平成16年)	大学／別科(調理専修)を北海道文教短期大学部から北海道文教大学に設置換 大学／留学生別科を増設
2006年(平成18年)	大学／人間科学部「理学療法学科」設置
2007年(平成19年)	大学／人間科学部「作業療法学科」設置
2007年(平成19年)	大学／別科(調理専修)を廃止(19.3.31)
2008年(平成20年)	大学／人間科学部「看護学科」設置
2010年(平成22年)	大学／人間科学部「こども発達学科」設置
2010年(平成22年)	大学／外国語学部「国際言語学科」設置

## (B) 設置する学校・学部・学科等の入学定員・学生数の状況

(平成22年5月1日) (単位:人)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員 (H22. 4. 1)	現員 (H22. 5. 1)
北海道文教大学	大学院 グローバルコミュニケーション研究科 中国語コミュニケーション専攻	5	11
	外国語学部	100	411
	国際言語学科	100	84
	英米語コミュニケーション学科	募集停止	106
	中国語コミュニケーション学科	募集停止	67
	日本語コミュニケーション学科	募集停止	154
	留学生別科	募集停止	募集停止
	人間科学部	430	1,536
	健康栄養学科	150	597
	理学療法学科	80	398
	作業療法学科	40	192
看護学科	80	283	
こども発達学科	80	66	
北海道文教大学短期大学部	幼児保育学科	募集停止	39
北海道文教大学明清高等学校	普通科	160	258
	食物科	50	111
北海道文教大学短期大学部附属幼稚園		(総定員)80	78
総計		(幼稚園定員含)825	2,444

## (C) 役員・教職員の概要

### 1. 役員(平成23年5月1日現在)

【理事長】 鈴木 武夫

【理事】 伊藤 雅夫 近藤 文衛 北崎 迪子

浅見 晴 江水上 寛

【監事】 浅川 修二 鈴木 豊

### 2. 教職員(平成22年5月1日現在)

(単位:人)

	専任					非常勤				
	大学	短大部	高校	幼稚園	計	大学	短大部	高校	幼稚園	計
教員	113	8	27	5	153	88	4	9	2	103
職員	42	5	5	0	52	13	2	2	0	17

## (D) 施設等の概要(平成22年5月1日現在)

(単位:㎡)

年度 部門	校地 (H22. 5. 1)	校舎 (H22. 5. 1)
大学	110,063	28,123
短大	48,757	10,577
高校	41,421	6,634
幼稚園	4,411	645
法人	3,000	2,424
計	207,652	48,403

## (E) 図書(平成22年5月1日現在)

(単位:冊)

年度 部門	H22. 5. 1
大学	99,623
短大	62,048
高校	8,537
幼稚園	1,343
計	171,551

## II 事業の概要

### (A) 当該年度の事業の概要・計画・進捗状況

＊平成22年予算編成方針に基づき、次のことを実施した。

#### 1. 教育研究体制について

少子化の進行に伴い、私学の運営は益々厳しさを増しているが、実学重視の特色ある教育の基本方針を踏まえ教学組織の拡充を図り、平成22年度は次の学科の設置を行った。

##### (1) 北海道文教大学の学科の設置

###### 1) 外国語学部学科設置

①平成22年4月に届出申請により「国際言語学科」を設置した。

###### 2) 人間科学部学科設置

①平成22年4月に設置申請により「こども発達学科」を設置した。

#### 2. 財政確保について

##### (1) 北海道文教大学(大学院を含む)

1) 外国語学部は、3学科(入学定員140名)を「国際言語学科」1学科(入学定員100名)に改組設置した。初年度で学生募集の時期が遅くなり、その結果本年度入学生は84名で入学定員を確保するに至らなかった。

2) 人間科学部に入学定員80名のこども発達学科を設置した。初年度で学生募集の時期が遅くなり、その結果本年度入学生は66名で入学定員を確保するに至らなかった。

3) 今年度も科学研究費補助金に個人応募し、2名が採択された。また、研究分担者は2名で研究費を配分された。

##### (2) 北海道文教大学短期大学部

平成22年4月に短期大学部幼児保育学科を改組し、4年制のこども発達学科を設置したことにより、今年度の学生募集を停止した。したがって、2年生39名の学納金があった。

##### (3) 北海道文教大学明清高等学校

高大連携を強化し、普通科に「看護医療進学」・「文系進学」・「保育福祉」・「サッカー」の4つのプログラム学習に「食物科」を併せて改編し教育内容を充実して3年目を迎えたが、本年度の入学生は106名で入学定員を確保するに至らなかった。

全道的な中学生の減少するなか、札幌南区は人口流失の傾向も止まらず、卒業生の減少も著しいものがあり、本校はそうした現状を踏まえ平成23年4月に生徒の入学定員を普通科160名から120名、食物科50名を40名に定員減を図り、少数徹底教育で教育内容の充実を計り、積極的な生徒の定員確保に努める。

##### (4) 北海道文教大学短期大学部附属幼稚園

昨年度から園児の送迎範囲を拡大したので、その効果を高めるために平成22年度も特色ある園児募集のPRに工夫を加え、継続して新入園児の確保に努め諸納金の増加を図った結果定員80名のところ園児は80名となった。

### 3. 支出について

#### (1) 人件費

本学園は、平成21年度は、看護学科の教員7名を採用、退職者は15名で人件費比率(対帰属収入)が53.7%と前年度より低下した。

平成22年度は外国語学部の教員1名・看護学科12名・こども発達学科10名・健康栄養学科3名・理学療法学科2人を採用し、退職者は22名で教職員の適正配置を図った結果、学科設置及び前年度より教員の出入りが多く教育職員が増えている中、作業療法学科・看護学科で144名学生の純増があり人件費比率は51.4%に低下した。

学科の設置で相対的に教育職員が増えている状況の中、近々年に人件費比率(対帰属収入)が50%以内になるように努力する。

#### (2) 一般経費

本学園の予算は予算要求・配当部門である北海道文教大学、北海道文教大学短期大学部、北海道文教大学明清高等学校、北海道文教大学短期大学部附属幼稚園及び事務局からの予算要求及びヒアリングを経て配当される。配当された経費の使用については、効率的に費用対効果を考慮し必要最小限度に留め節約に努めた。さらに収入・支出のバランスは原則として学校別(部門別)の独立採算制に努める。

#### (3) 特別・企画事業

平成22年4月設置の外国語学部「国際言語学科」及び人間科学部「こども発達学科」の申請及び認可

1) 外国語学部「国際言語学科」設置の内容は下記のとおりである。(新規事業)

① 学部・学科名：外国語学部「国際言語学科」(3コース・6トラック)

- 1) 英語コース
- 2) 中国語コース
- 3) 日本語コース

② 入学定員：100人

③ 設置年月日：平成22年4月1日

④ 設置場所：恵庭キャンパス

⑤ 教員組織：10人以上【文部科学省設置基準】

2) 人間科学部「こども発達学科」設置の内容は下記とおりである。(新規事業)

① 名称：人間科学部「こども発達学科」

② 入学定員：80人

③ 設置年月日：平成22年4月1日

④ 設置場所：恵庭キャンパス

⑤ 教員組織：10名以上【文部科学省設置基準】

### (B) 各部署で具体的な事業として次ぎのことに実施した。

#### 1. 事務局(法人)

(1) 鶴岡学園寄附行為の変更・登記を行った。

1) 外国語学部国際言語学科・人間科学部こども発達学科の設置に伴う登記事項変更登記完了届の提出

- 2) 学校法人鶴岡学園役員変更届の提出
- (2) 特別事業等として実施した事項
- 1) 人間科学部実習室関係改修工事
- ① 工 事 名 : 給食経営管理実習室・周辺施設改修工事
- ② 工 事 内 容 : 施設・設備関係及び厨房機器関係
- 2) 図書館等改修に伴う工事
- ① 保健管理センター、カウンセリングルームの移転・改修
- ② 新閲覧室の増設(40席)
- ③ 開架書架の設置変更による閲覧席の増設(24席)
- 3) 短期大学の配管整備(新規事業)
- 札幌キャンパス短期大学の1・2号館の配管整備工事を行うものであり、工事の内容は下記とおりである。
- ① 名 称 : 札幌キャンパス配管整備事業
- \* 札幌キャンパス2号館1階天井・吸水管更新工事を行った。
- \* 札幌キャンパス2号館PS内給水管更新工事を行った。
- ② 本事業は平成21年度から平成23年度の3カ年計画で実施
- (3) 一般事業
- 1) 総合事務(学務)システムの更新
- 2) 自動証明書発行機の設置
- 3) 公開講座
- 北海道文教大学及び短期大学並びに明清高等学校における公開講座を実施した。近郊の一般市民を対象とした公開講座を実施して「生涯学習」の機会を提供した。「公開講座」、「子育て支援」等の実施は、社会が大学に強く求めていることであり、本学の広報活動にもつながり学生確保に効果が期待できる。
- (4) 学生確保、就職支援及び学生支援に関する事業
- 1) 学生募集に伴う地方駐在員の配置
- 平成22年度も文教大学の学生確保につながる為、旭川、北見、帯広の3カ所に委託駐在員を配置した。各地域にある高等学校を巡回し、本学の設置位置・環境、設置学部・学科、教育研究、取得可能な資格、学生生活等現況を説明しPRに努め、特に高等学校の進学担当者とコミュニケーションを深め、学生募集を図った。
- 2) 文教大学オープンキャンパスの実施及びテレビ・新聞・各種受験雑誌・公共交通機関等を媒体としたPRを実施した。
- 3) 文教大学の父母懇談会を実施した。
- 4) 文教大学及び学短期大学部学生の就職支援活動・就職セミナーを実施した。
- 5) 文教広報第24・25号を発行した。
- 6) 海外協定校等交流促進センターの設置及び留学生海外拠点事務所を「広東外国語対外貿易大学南国商学院」・「韓中学院」・「吉林財経大学」の3カ所に設置し、留学生の確保に努めた。
- (5) 北海道文教大学及び大学院の自己点検・評価
- 本学は平成19年4月に第1回認証評価を受け、今年度第2回認証評価を受けるために文教大学・大学院で自己点検・評価を実施し調書を提出した。その結果大学基準協会の大学基準に適合しているものと承認された。認定期間は平成23年4月より平成30年3月

末日までの期間とされた。

(6) 鶴岡学園及び北海道文教大学等の諸規程の制定及び改正

1) 諸規程の制定

- ①北海道文教大学奨学金給付規程
- ②北海道文教大学子育て教育地域支援センター規程
- ③北海道文教大学子育て教育地域支援センター運営委員会規程
- ④北海道文教大学教員の研究費の重点配分に関する申合わせ
- ⑤学校法人鶴岡学園育児休業・介護休業等に関する規程
- ⑥学校法人鶴岡学園旅費規程

2) 諸規程の一部改正

- ①学校法人鶴岡学園寄附行為施行細則
- ②校法人鶴岡学園組織規程
- ③校法人鶴岡学園事務分掌規程
- ④学校法人鶴岡学園職員給与規程
- ⑤学校法人鶴岡学園公印取扱規程
- ⑥学校法人鶴岡学園経理規程
- ⑦北海道文教大学短期大学部の廃止に伴う各種規程の廃止・一部改正
- ⑧北海道文教大学学則
- ⑨北海道文教大学大学院学則

(7) 平成23年度以降に向けての当面の課題

平成23年度は、昨年度に引き続き財政の安定化に向け、学園・学部・学科全般の管理運営の見直しを行い、さらに学生の定員確保に全学一丸となって邁進する。

収入面では、大学の管理運営及び学部・学科組織等の自己点検・評価を行い、本学の特色である「実学教育」を通して学生の確保につなげ授業料収入を増額し、科学研究費等公的補助金の確保を含めて増収を図る。支出面では各部局から提出された予算要求書に基づき、厳正なヒアリングを行い精査の結果、必要不可欠な予算配分に止め、経費を効率的に執行し節約に努める。昨年度に引き続き、事務職員の資質向上を目指し計画的に研修を実施する。また、国家試験の合格率を高めるため、対策の強化を図る。

具体的な事項として次のことを実施する。

- 1) 各学部・学科とも、限られた18歳人口から本学に入学した学生に、懇切・丁寧な真摯な姿勢で向き合い、大学生活全般の視点から魅力のある学部・学科を目標に教育の質の向上・充実を図ることが最大の重点目標である。
- 2) 少子化に伴う大学経営において、教育・研究に関連して教職員の危機意識の共有を図り、健全な財政の確立を目指す。
- 3) 経常経費特別補助金を確保するため積極的に応募申請する。
- 4) 平成23年度も教育職員に対し、共同研究費及び研究費の傾斜配分を実施する。
- 5) 各学科との連携を図り本学の国家試験取得等の特色をPRし、学生募集・確保に全教職員が協力・参加する。
- 6) 文教大学において教育職員・事務職員が一体となつての就職活動の強化を図る。

- 7) 公的機関である大学は社会に対して情報を提供する事が問われており、平成23年度から教育情報の公開が定められ、ホームページ等で公開する。
- 8) 平成23年度の最重要課題として国家試験対策を掲げ対策室を設け、合格率の向上を図る。
- 9) 教職員の海外研修制度を創設し、1人1人の職員の能力向上を図る。
- 10) 将来の学生確保対応として、人間科学部に留学生受け入れ可能性の事前調査として、本学で修得した知識・資格等が母国でどのように利活用できるか調査を行う。
- 11) 学生により良い教育環境を提供するため8号館及びサークル会館を建設する。
- 12) 事務組織を充実し、事務職員を対象に今後学内研修を計画的に行い、関係機関での研修に積極的に参加させる。
- 13) 明清高等学校での生徒の確保及び文教大学への進学指導

## 2. 北海道文教大学外国語学部

外国語学部国際言語学科及び英米語・中国語・日本語コミュニケーション学科(3・4年生)

### (1) 資格取得

- 1) 英米語コミュニケーション学科→実用英語技能検定試験、TOEFL、TOEIC、通訳技能検定試験を実施した。
- 2) 中国語コミュニケーション学科→中国語検定試験、TECCを実施した。
- 3) 日本語コミュニケーション学科→日本語教育能力検定試験、日本語文章能力検定試験、日本語漢字能力検定試験、ロシア語検定試験を実施した。

### (2) 課外活動

- 1) 体育大会を5月23日に実施した。
- 2) 第12回文教大学祭「榮凜祭」が10月8日～10日に実施され、地域住民多数の参加があり、盛況だった。

### (3) 就職活動

- 1) 学科、就職支援委員会、アドバイザー、就職課との連携により就職講座の受講を宣伝し、就職課に積極的に赴くように指導した。
- 2) 会社説明会に出席する学生に欠席届を提出させて出講日数を調整した。

### (4) 学生募集活動

- 1) 業者主催の進学説明会で入学相談に応じた。
- 2) 高校生対象のオープンキャンパス(6月～12月)を実施した。
- 3) 入試広報課と連携して出前授業を実施した。
- 4) 海外協定校等交流促進センターの設置及び留学生海外拠点事務所を3カ所に設け、中国に教員を派遣して留学生の確保に努めた。

### (5) 地域社会との連携・交流

- 1) 外国語学部の公開講座(8月～9月)を実施した。
- 2) 恵庭市の新生長寿大学の運営、授業に参加し講座の講師を担った。

### (6) 学外への広報活動

- 1) ホームページを刷新し外国語学部のサイトを開設した。
- 2) 英米語コミュニケーション学科→英語ミュージカルを恵庭市民会館で12月中旬に公

演した。恵庭市小中学校のアシスタントティーチャーに学生を参加させた。

- 3) 中国語コミュニケーション学科——→中国語スピーチコンテストへの積極的参加を学生に呼びかけた。
  - 4) 日本語コミュニケーション学科——→「日本語なんでも相談室」をメールで受けつけ小冊子を作成し高校生やマスコミに配布した。
- (7) 特別企画
- 1) 国際言語学科の設置を記念し、次の事業を実施した。
  - 2) 7月2日「音楽を通じた国際教育支援—ジンバブエの輝く子どもたち」
  - 3) 10月15日札幌在住の作家・小檜山博氏の講演「ひとりでは生きられない」市民と学生420人が集まった。
  - 4) 10月21日在札米国領事館のジョン・テイラー領事による講演「新しい日米関係を考える」流暢な日本語による講演であった。

### 3. 北海道文教大学人間科学部

#### (1) 資格取得

- 1) 国家試験対策委員による国家試験対策計画の作成および模擬試験を実施した。
  - ①管理栄養士国家試験対策講習会を春期11回、夏期28回、秋期26回、冬期17回実施した。また、強化プロジェクト学習10回と外部講師による講習会を8日間行った。更に、学外模擬試験7回と学内模擬試験3回を実施した(健康栄養学科)。
  - ②理学療法士国家試験対策として、ゼミグループ単位で毎日一定時間グループ学習を行い、全員の合格を目指して、国家試験対策セミナーを17回開催した。さらに国家試験対策模擬試験を5回実施した。(その内、3回は全国規模の模擬試験)成績の低い学生についてはゼミ指導教員が指導した。
  - ③作業療法士国家試験対策として、3回の模擬試験の実施し、教員指導の下学生グループ学習を主とした国家試験対策を行った。
  - ④看護師国家試験対策として2年生を対象に2回、3年生を対象に3回、外部業者による看護師・保健師国家試験模擬試験を実施した。さらに基礎知識の定着のため、学科教員による基礎専門科目集中講座を3日間(1日4コマ)にわたり実施した。

#### (2) 課外活動

- 1) 食生活サポート健康栄養学科新入学生対象  
本学科新入生が延べ130名参加し、4~6月の毎週水曜日3講時に計8回行った。
- 2) 学友会行事への協力(食中毒防止対策など)(健康栄養学科)  
大学祭において、模擬店出店にともなう調理室の使用及び調理作業・販売に関する衛生管理指導を行った。
- 3) 教育研究農場・果樹園運営 5月~10月(健康栄養学科)  
健康栄養学科を中心とする学生約60名が、教育研究農場で食品の生産を体験した。  
学生は学部・学科の垣根を越え、普段接する機会の少ない教員とのコミュニケーションにも役立っている。
- 4) 学生へのボランティア活動参加への支援(作業療法学科)  
6月に恵みのケアサポート、10月に札幌市身体障害者福祉センター、第36回札幌ろうあ

者文化祭典健康相談コーナーに学生が積極的にボランティア活動に参加した。

### (3) 就職及び進学

#### 1) 就職課の連携による就職意識の向上、総合的指講座

- ① 学科就職委員、担任、アドバイザー及び就職課の連携による就職意識の向上、総合的指導、就職講座を実施、就職活動には個別対応で細やかな支援を行った(健康栄養学科・理学療法学科・作業療法学科)。
- ② 外部業者による就職講座を開催し、就職活動の進め方、小論文対策などの講義を行った(看護学科)。

#### 2) 学生に対する就職情報の提示

- ① 学生に対する就職情報は、4年生・3年次の掲示板も充実して、早くから就職活動への意識を高めるようにした(健康栄養学科)。
- ② 就職課との連携による採用担当者向け大学案内を作成・配布し、説明会を行った。また求人先の関係者による就職説明会を理学療法学科・作業療法学科合同で行った(理学療法学科・作業療法学科)。

#### 3) 病院等の就職説明に対する面談

- ① 2病院からの訪問を受け、就職課との連携により学科長と学科就職委員が面談を行った(作業療法学科)。
- ② 全国各医療施設より、看護部長他による大学訪問があり、就職課と連携し就職委員が対応した。22年度は27施設の訪問があり、就職及び卒後教育内容の確認なども含めた面談を行った(看護学科)。

#### 4) 就職課と連携し、求人先の訪問及び拡大と開拓

- ① 求人先の拡大と開拓のため、6月および9月の臨地実習巡回時に学科教員が採用担当者向けパンフレットを持参し、求人開拓に努めた(健康栄養学科)。

### (4) 学生募集

#### 1) 進学オリエンテーションでの入学相談

入試広報課との連携により、入学相談に対応した(5学科)。

#### 2) 高校生対象の「オープンキャンパス」6月～10月、3月の計5回実施した。

各学科が入試広報課との連携により、オープンキャンパスを行い、体験講義・体験演習等入学後の学習イメージが膨らむよう毎回異なる内容を実施した(看護学科)。

#### 3) 入試広報課との連携による学校見学会及び高校への出前講義

- ① 学校見学会(3校)及び出前講義(7校8回)を入試広報課との連携で実施した。(健康栄養学科)
- ② 学校見学会及び出前講義(6校)を入試広報課との連携で実施した。(理学療法学科)
- ③ 高等学校への特別授業(4校)、学校見学会(2校)を入試広報課との連携で実施した。(こども発達学科)
- ④ 高校学校への出前講義(2校)をおこなった。(作業療法学科)

#### 4) 入学試験合格者への入学前指導

基本的にすべての合格者に対し、入学後必要となるレポート作成の方法を、数回の課題を通し入学前に指導した。(理学療法学科)

#### (5) 地域社会との連携・交流

- 1) 恵庭市教育委員会との連携による公開講座開催を3回開催した。
- 2) 恵庭市新生長寿大学の授業で講義を行った(2名)
- 3) 食育教室(7回): 恵庭市児童に対する適切な食生活の指導(健康栄養学科)  
恵庭市内の小学生・中学生および幼児親子を対象とする食育教室を7回実施した。参加者は延べ286名。この事業に対して63名の本学科学生がボランティアとして参加した。

### 4. 北海道文教大学短期大学部

#### (1) 教育目標: 豊かな人間性と高度な専門性を備えた保育者の養成を行った。

- 1) 人間的資質の涵養(豊かな感受性、保育者としての資質の向上)に務めた。
- 2) 社会的常識の養成(基本的な常識と教養、人間関係調整能力の育成)を目指した。
- 3) 専門的能力の育成(プロフェッショナルな保育者としての基礎的能力)に務めた。

#### (2) 平成22年度事業報告

- 1) 保育者としての資質向上のための対策を行った。
- 2) 日常的にマナーの指導と漢字の学習を重視し、マナー検定、普通救命講習を本学を会場として実施した。
- 3) 認定ベビーシッター資格の指定校として、資格認定の必修科目を2年生後期の選択科目として開講した。

#### (3) 授業内容の質的向上のための対策

- 1) FDへの積極的な取り組み: 授業評価を実施し、授業の改善や改革に取り組んだ。
- 2) GPへの積極的な取り組み: GPに採用されるような内容へと改善数する努力を行った。

#### (4) 教育・研究・学生指導に関する学科内情報システムの整備

ネットワークシステムの有効な活用に関する研究ならびに人間科学部こども発達学科との連携を効果的に行うための研究を行った。

#### (5) 学習成果の発表

文華祭: 恵庭市西島松の夢創館において日常の学習成果の発表を行った。

#### (6) 就職活動: 就職に関する意識の高揚と就職実績の向上

- 1) 学科・アドバイザー・就職相談室の連携による総合的指導と就職講座及び個別指導を継続的に実施した。

- 2) 学外実習との連携による就職活動を行った。

学外実習巡回の際に積極的な就職先開拓・求人獲得活動を実施した。

- 3) 学生の就職活動の支援

就職支援室を通さない就職活動に対しても、面接・作文の指導を実施した。また、学外(校外)実習の礼状も就職指導の一環と位置付け、礼状の指導を関連科目の担当教員及び実習担当教員が分担して行った。

- 4) 就職対象範囲の拡大と開拓

インターネット等を活用して幅広く求人先を開拓し、長期休暇中も学生に個別に連絡を取り、就職活動を支えた。学外実習巡回の際に積極的な就職先開拓・求人獲得活動を実施した。

- 5) 全員就職の達成

以上の取り組みにより、就職を希望する学生全員の就職を達成した。

#### (7) 学外諸団体との交流

人間科学部こども発達学科と連動して全国保育士養成協議会、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会、北海道幼稚園教諭養成連絡協議会、北海道幼稚園教諭養成校協会等の活動に参加した。

### 4. 北海道文教大学短期大学部附属幼稚園

本年度は、職員の異動もあり昨年同様、附属幼稚園の特性を生かして日々の生活体験を重視し、多様な人たちとの触れ合いを通して、困難に立ち向かうたくましい子どもを育てるために大人同士の協力もあり幼稚園の管理運営に努めてた。

#### (1) 保育方針

- 1)ひとり一人の子どもの気持ちの受容に努めるとともに仲間関係を大切にされた保育を行った。
- 2)体験の積み重ねを尊重し、学びを実感できる保育を行った。
- 3)クラス担任を大事にしながらも、全職員の協力体制を構築し保育にあたった。

#### (2) 保育目標

- 1) つよい子・・・正しく冒険できるたくましい心を育てよう
- 2) よい子・・・「智・情・意」豊かな心を育てよう
- 3) なかよい子・・・他人を尊重し協力する心を育てよう

#### (3) 附属幼稚園の特徴を生かした保育を行った。

##### 1) 英語教室

本年も22日間開催し、英語教室も定着し子どもたちの生活にも自然な形で溶け込んできた。

##### 2) 身体活動及びスキー

インストラクターの援助を得て本園の特色として定着してきており、保護者からの期待も大きい。本年度より、フツスキー場のリフト乗車に付き添いが必要になり、さらに保護者の支援をあおぎ実施した。

#### (4) 障害児保育（特別支援教育）

療育関係機関よりの期待も大きく、地域の環境作りに貢献するため、本学の作業療法学科教官との共同研究「schoolAMPSの幼稚園児への適用」により、子どもの生活動作への支援の幅が広がりつつある。

#### (5) 預かり保育

預かり保育担当者と幼稚園保育者との情報交換の場を持つことができた。

#### (6) 地域とのつながり

##### 1) 子育て支援 「みんなおいでよ」

入園希望者のほかにも親子の居場所づくりとして、地域のニーズに応えることができるように関係機関と連携を深めながら取り組んできた。

##### 2) 保健所等、他機関との連携

市立病院清療院、デイケアセンター、教育委員会幼児センター等と特別支援教区関連での連携を行った。

#### (7) その他

- 1) 避難訓練の実施 ①5.18②10.7
- 2) 保護者の保育参加・保護者懇談会の実施

### 3) 父母の会との連携

夏祭り：7月24日（金）及び園長を交えての茶話会を実施した。

## 5. 北海道文教大学明清高等学校

北海道文教大学の併設の高等学校として高校大学接続教育を柱とし、加えて「実学教育」を軸に調理や医療福祉分野での社会貢献を目指して高等学校教育に取り組んできた。そして、「普通科」に「看護医療進学」・「文系進学」・「保育福祉」・「サッカー」という4つのプログラム学習を設定し、併せて伝統ある「食物科」という構成に改変して3年目を迎えたが、新指導要領の実施と大学の学科の改組を踏まえ一層の充実発展と内容の向上を目指した。しかし、入学生の質は向上したが定員の確保は及ばなかった。

### (1) 教育活動の事業報告

#### 1) 高大接続教育を活かし、また新学習指導要領に対応する「プログラム学習」の充実

①新指導要領の移行処置をふまえてプログラム学習を見直し新カリキュラムを作成した。

#### 2) 授業充実を保障する学習環境の整備と校舎利用の将来展望の具体化

①学習の基本校具学習椅子の更新を進め、また札幌キャンパスの将来展望を作成した。

#### 3) キャリア教育の向上のためにデータベースを細密化して進学指導を充実

①学習情報サイトと学校端末を直結して、各個人の進路希望の情報提供を高速化させた。

#### 4) 中学卒業者の激減の年にあたる年度を迎え将来展望を見据えて定員の見直しを図る

①石狩地区中学卒業者は前年比1,253名減の実情を踏まえ長期展望のもと定員を減じた。

#### 5) 高い水準で全校の誇りとなる部活動の推進と地域貢献

①全国的な評価を受けている女子・男子サッカー部と、地域評価の高いボランティア部や茶道部を前面に押し立て地道な地域貢献を積み重ねた。

### (2) 地域に開かれ地域と共に歩む学校づくりのための公開講座

#### 1) 根強く定着している「コンピュータ講座」の技術に応じたきめ細かな実施

①地域に定着している「コンピュータ講座」をより一層きめ細かく設定して実施した。

#### 2) 地産地消の製菓講習に加え特色講座「家庭介護の考え方と技術」を充実

①地域性を生かした製菓講習に加え「家庭介護の技術講座」の内容を充実して実施した。

### (3) 自己点検・自己評価・外部評価の実施報告

#### 1) 学校評価調査と地域連携委員会による外部評価の実施と教育活動の点検の定着

①学校点検評価の指標となるアンケートと地域連携委員会を活用して教育を点検した。

#### 2) 自己点検・外部評価の成果を広く社会に公表して謙虚に教育改善を図る

①印刷物及びホームページで点検評価を公表し謙虚に学校改善を推進した。